



# 旅するひと。

Photos : RAITA TSUCHIYA



## Regis Pean

M・A・Cストアデザインディレクター レジス・ピーン

インタビュー・文 浦野 芳子

刺激的な街で、快適な滞在。だから東京は大好き。

表参道ヒルズが、都会そのものを表現していることを、ここM・A・Cの店内へ足を踏み入れた瞬間、感じた。世界中のM・A・Cのストアデザインを担うレジス・ピーン氏が手がけた店内には、独特の曲線が壁面を走る。突き当りには、エモーショナルな色彩のアート。ガラス張りのクールな外観に対するこのコントラストは、例えるならば端正な横顔の奥に隠された豊かな心の動きのよう。それは都会的に洗練された、大人のスタイルそのもののようにも思えてい。

「メイクアップは人、つまり心の動きそのものを創ることだと僕は思っている。だからジェームス・ゲイジャー氏(M・A・Cクリエイティブディレクター)の「グリエイティブティ」は常に変化を要求され、M・A・Cのゲストは常にサプライズを望む」という思想は、この表参道ヒルズにとっても合っている。人も流行も常に動き続ける、そんな場所であることを強く表現したいと思った。」

一年のうち多くの時間を「出張」という旅の時間に費やすピーン氏に、滞在するホテルの条件を聞いた。「広い机、寝心地よい大きなベッド、快適なバスルーム、そしてジム！」意外に空間デザインには触れない。

旅は、快適な私生活の延長。

もちろん、デザインホテルにも興味はある。刺激は受けるが、「仕事で滞在する場としては決して快適な場所とは言えない。」滞在自体には日常の快適さの延長を、そして異国の地からは必ず刺激を持ち帰りたい、そう話すピーン氏の旅のマスターアイテムは「カメラ、日記、アダプタ(パソコンの)」。中でも日記には毎日、印象的だった味・場所・出来事を記し、それが後のインスピレーションの源になることもある。

「旅の感動は、僕のアイデアの引き出しの一部だよ。」  
体感の記憶は、創作の財産だ。

### レジス・ピーンの旅する小物

これが旅の日記帳。味、場所、人、を綴る。



キャリーバッグ。フットワークは軽く！



Q 日本で好きなホテルは？

A パークハイアットは、空間デザインとサービスが素晴らしい。グランドハイアットはロケーションが最高！

Q 好きな旅行先は？

A 大自然と水平線が好き。アラスカ、アイスランド、モロッコ、ブラジル、去年はアルゼンチンに感動。

Q 東京で好きなお店は？

A コム・デ・ギャルソン!!



世界中のM・A・Cのデザインを手掛けるピーン氏。その土地にあうデザインを心がけるそう。こちらはギリシャのショップ。やはり曲線使いが特徴の個性的な空間だ。



#### PROFILE

M・A・C副社長。ウィーン工科大学で建築を学んだのち、Peter Marino建築事務所にて経験を積む。1999年にM・A・Cストアデザインディレクターに就任。